

1・治療の選択肢を広げる「患者申出療養制度」が始まっています

2・遺伝カウンセラーのご紹介

3・名大病院歴史探訪

4・高度な医療を専門的に支援する医療技術部

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーがご覧いただけます

TOPICS 特集 ① 治療の選択肢を広げる

「患者申出療養制度」が始まっています

本院は平成28年1月に医療法に基づく臨床研究中核病院に認定されました。臨床研究中核病院では、本年4月より新たに始まった「患者申出療養制度」を実施することができます。

先進的な医療を提供するために 日本は皆保険制度では、保険で認められた診療を受ける場合は医療費の一部のみを自己負担すればよいことになっています。

実施機関としての役割を担う 医療法に基づく臨床研究中核病院とは、日本発の画期的な医薬品や医療技術などを開発するために、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う病院です。

よりよい治療を選択する 患者申出療養制度は、保険で認められていない医療費などの自己負担があり、申し出から治療を受けるまでに時間がかかるなど、決して利用しやすい制度ではないかもしれません。



限られています。そのため、患者さんが希望してもどんな医療でも受けられるというわけではありません。また、この制度は臨床試験として行われるため、試験の準備や実施に必要な経費は患者さんが負担しなければなりません。

1年くらいかかるでしょう。この患者申出療養制度についてもっと知りたい方はかかりつけの先生に相談するか、または、名大病院の患者申出療養相談窓口（外来棟1階 地域連携・患者相談センター）にお問い合わせください。

この問題を少しでも解決するために、本年4月より新たに始まった「患者申出療養制度」を利用することができま。この制度では、保険で認められていない未承認の薬や医療機器を使った治療を受けたいという患者さんからの申し出があれば、保険外診療の分だけ自己負担すればよいことになりました。

季節のお話

不眠症

精神科(睡眠医学寄附講座) 講師 藤城 弘樹



不眠症とは、夜寝つきが悪い、眠りを継続できない、朝早く目が覚める、眠りが浅くしっかりと眠った感じがしないなどの症状が続くため、日中の眠気、注意力の散漫、疲れなどを生じる状態を指します。

でなく、その結果、日中に心や体の不調が生じる状態を意味します。そのための不眠症の治療は、「何時間眠っているか？」ではなく、日中の心や体の不調を改善することを目標に設定します。

不眠症を引き起こす原因として、寝室の温度や明るさなどの環境要因、痛みや頻尿などの身体要因、精神的ストレスなどの心理的要因、カフェイン摂取や飲酒などの生活習慣要因が挙げられます。

睡眠衛生に十分配慮しても不眠が持続する場合、薬物治療を検討します。しかし、不眠を引き起こす睡眠障害として、睡眠時無呼吸症候群、レストレスレッグス症候群、レム睡眠行動障害などがあり、それぞれ治療方法が異なります。

睡眠障害対処12の指針

- 1. 睡眠時間は人それぞれ、日中の眠気で困らなければ十分
2. 刺激物を避け、眠る前には自分なりのリラックス法
3. 眠たくなってから床に就く、就床時刻にこだわりすぎない
4. 同じ時刻に毎日起床
5. 光の利用でよい睡眠
6. 規則正しい3度の食事、規則的な運動習慣
7. 昼寝をするなら、15時前の20~30分
8. 眠りが浅いときは、むしろ積極的に遅寝・早起きに
9. 睡眠中の激しいイビキ・呼吸停止や足のびくつき・むずむず感は要注意
10. 十分に眠っても日中の眠気が強い時は専門医に
11. 睡眠薬代わりの寝酒は不眠のもと
12. 睡眠薬は医師の指示で正しく使えば安全

診療科レポート「眼科」

外来医長 岩瀬 剛

眼科においては画像診断技術の発展が目覚ましく、非侵襲的に短時間で撮影された画像から、眼球の奥にある網膜や脈絡膜の小さな病変を観察し、診断することができるようになりました。

このような新技術を用いた診療を通して、より的確で、より安全な眼科診療の実現を目指し、中部地方の眼科診療の核として地域貢献を果たしていきたいと考えております。

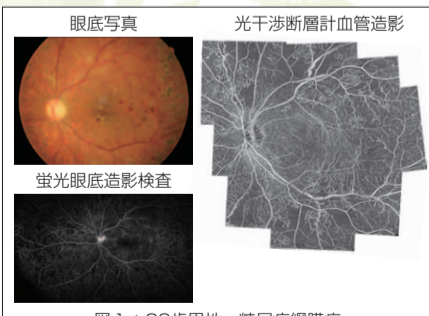


図1: 29歳男性、糖尿病網膜症

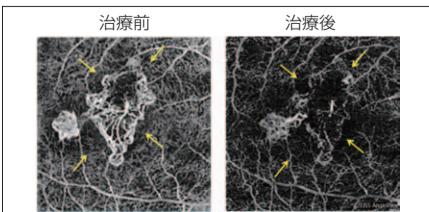


図2: 68歳男性、加齢黄斑変性の治療前後の新生血管の比較

遺伝カウンセラーのご紹介

遺伝カウンセリング室 遺伝カウンセラー 森川 真紀

みなさんは《いでん》という言葉をごどのような時に耳にしますか？「目のあたりが親御さんそっくり！きっと《いでん》だね」など親子で共通する部分を指して言うことが多いのではないかと思います。

ここに病気についての心配事が加わると、「家族に同じ病気の人がいるけど、これって《いでん》？」「私（または家族）の病気は子どもにも関係するの？」といった声が聞かれるようになります。また、「お腹の赤ちゃんに染色体（遺伝子）検査をした方がよいの？」といった疑問もたれる方もいらっしゃいます。

このような遺伝や遺伝子に関わる悩みや不安、疑問をもたれている方々のご相談を受け、いろいろな面から支援するのが遺伝カウンセラーの役割です。

カウンセラーの主な仕事としては遺伝カウンセリングを実施しています。通常の診療とは別に時間を設けて、患者さんだけでなく、場合によってはご家族からのご相談にも応じています。

具体的には、主治医と連携をとりながら、相談者（患者さんまたはご家族）の悩みや不安、疑問についてまずは詳しくお伺いし、それに関わる医療情報、特に遺伝学的情報を

きただけわかりやすくお話しします。

そして相談者と一緒に今後について考えていく中で、相談者ご自身の力で課題を解決して頂けるように、心理面や社会生活面も含めた支援を行います。なお、病気によっては遺伝子検査が可能な場合もありますが、検査希望の有無にかかわらずカウンセリングを受けていただくことができます。ご相談を希望される場合は、まずは主治医にその旨をお伝えください（原則自費診療となります）。

近年、遺伝医療はかなりのスピードで進歩しており、今の瞬間も世界のどこかで新しい遺伝子の働きや病気との関連が発見されていると言ってもよい位です。遺伝カウンセラーは常にアンテナを張って最新の情報を入手し、少しでも皆様のお役に立てるよう準備しています。



本院がJHQCクオリティクラス・プロフィール認証を受けました

本院は、9月15日(木)、国内の第三者評価機関の一つであるJHQC（公益財団法人日本生産性本部 日本版医療MB賞クオリティクラブ）のクオリティクラス・プロフィール認証を受けました。

JHQCは、病院経営者、経営幹部、経営サポートスタッフの経営能力の向上を通じて、病院の経営の質を高め、社会インフラとしての医療システム強化と市民のQOLの向上を目指すこと、今後の日本における病院経営のモデルを追求していくこと、さらに、経営の質の向上を通じて、病院と市民との新たな関係を構築し、より公正な相互関係を促進させることを目的とし、平成20年に設立された団体です。

「クオリティクラス・プロフィール認証」は、経営の質向上に取り組



み、実効性を挙げている医療機関に対し認証を与えるもので、医療安全に関する方針や戦略をまとめた「医療安全認識」、さらに医療安全に関する実績データ（3ヶ年分）等をもとに審査されます。合格した医療機関は、3年間にわたり「プロフィール認証」病院として認証されます。本院は、今後も高いレベルでの患者満足や職員満足の実現、さらに業績の向上を達成していく所存です。

ミニニュース

「コンサート」を開催しました

中央診療棟2階ピアノ広場にて、4月25日(月)に『レ・ヴィオレッテ』、5月10日(火)に『デュオ・ピオーネ&コーラスカトリア会』、5月25日(水)に『筑前琵琶旭如会』、6月14

日(火)に『名古屋ゴールデンエイジ・メイルクワイヤー』の方々によるコンサートを開催しました。それぞれが趣向を凝らした演目となっており、多くの皆様にご参加いただきました。



▲4月25日に行われたコンサート



▲5月10日に行われたコンサート



▲5月25日に行われたコンサート



▲6月14日に行われたコンサート

Nagoya Disease Information Center ナディック通信



〈がん相談員の出張相談〉

地域連携・患者相談センターにて、がん相談を行っているがん相談員が、毎週火曜日・木曜日の午前中にナディックに訪問して、相談を行っています。

がん相談支援では、がんの治療や日常生活など療養にかかわる心配や悩みの相談にお応えしています。お気軽にご相談ください。

- ・開催場所 中央診療棟2階 広場ナディック
- ・開催日 毎週火曜日・木曜日の午前中

★患者情報センター（広場ナディック）は、平日（月～金）10時～16時（年末年始及びゴールデンウィークを除く）開館しています。



特集 TOPICS 3

名大病院歴史探訪 其の5

名大病院の始まりは、1871（明治4）年に旧名古屋藩評定所跡に設けられた仮病院です。2014年に鶴舞町への移転百周年を迎えた名大病院の歩みを医学部史料室（医学部図書館4階）の所蔵品によりご紹介します。

後藤新平との出会い —ローレツ③—

愛知県病院と医学校は、教師としてローレツ（Albrecht von Roretz 1846-1884）、副教師兼訳官として司馬凌海（しばりょうかい 1839-1879）がいたことで名声が高まりました。福島の須賀川病院にいた後藤新平（1857-1929）は、「小成に安ずべきに非ざればとて、大都に遊学の念小時も止まず。幸いに同県（愛知県）独逸人を聘し、此盛大なる病院医学校を開設するに際し」、愛知県公立病院に転任し、ローレツに医学を、凌海にドイツ語を学びます。1876（明治9）年8月、後藤は19歳でした。

翌1877年に西郷隆盛らによる西南戦争が起こり、傷病兵の治療のために大阪陸軍臨時病院が建てられました。後藤は、「諸大家の治療多き由聞き及び、断然職を辞して大阪に行き、実験せんと決す」と、同年5月に、一時期8,000名余りの患者を収容していたこの大病院を見学に行きます。すでに巡視に来ていたローレツの賛同を得て、同年9月には、日給60銭の傭医として働くことになり、その後、名古屋鎮台病院（国立病院機構名古屋医療センターの前身です）の傭医となります。

後藤の希望により大阪へ修行に行かせたのに、名古屋へ戻ると鎮台病院に引き抜かれたため、愛知県公立病院としては納得できません。鎮台病院長の横井信之（1846-1891）に相談しますが、「県立病院が、陸軍の人間を横取りするとは何事か」と反発され、ついにローレツが鎮台病院を訪ねます。「日本のために、かつは日本の医学界のために、立派な医者を養成して、公益を将来に期して行きたい。後藤君を除いては、私の後継者となるような人材は一人もいない」と情意を尽くしたローレツの言葉に、横井もそれまでの確執を解いて快く応じ、後藤は再び公立病院に戻るようになりました。その後、後藤はローレツの学徳を受け、助手として、代診として期待に応えて、ローレツと後藤(図1)は水魚の交わりとなっ

ていきます。

『医事新報』(図2)は公立医学校が発行した、本学における最初の学術雑誌です。1878年7月に創刊し、1880年4月に任期の満ちたローレツが離任した後も、1882年3月まで発行された54号の雑誌には、ローレツの臨床講義と治験、欧米の医学書や新聞記事などの抄録、各地の流行病、風土病の報告などが掲載されました。11号からは後に図書としてまとめられるローレツの「断訟医学」(法医学)が連載の多くの部分を占め、「断訟医学」の完結により『医事新報』も休刊となりました。

(医学部図書館 蒲生英博)



図1 後藤新平(左)とローレツ(右) 1880年ごろ

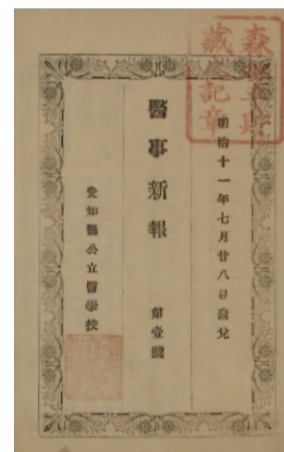


図2 医事新報 1878年

開講日時：平成28年11月19日(土)
13時30分～16時15分
会場：名古屋大学医学部附属病院
中央診療棟3階 講堂
対象者：一般市民の方
募集定員：200名(先着順)
受講料：無料
申込締切：平成28年10月21日(金)

【申し込み方法】

名大病院 HP から受講申込書をダウンロードし、郵送またはFAXでお送り頂くか、お名前・ご住所・お電話番号をハガキまたはE-mailで申込締切日までに下記宛にお知らせ下さい。
★定員になり次第、受付を終了させていただきます。受講いただけない場合のみ連絡差し上げます。

【お問い合わせ・申し込み先】

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
名古屋大学医学部・医学系研究科
総務課総務係 鶴舞公開講座担当 あて
TEL(052)744-2040/FAX(052)744-2785
E-mail iga-sous@adm.nagoya-u.ac.jp

【その他】

駐車場を用意できないため、来学の際には公共交通機関の利用をお願いします。

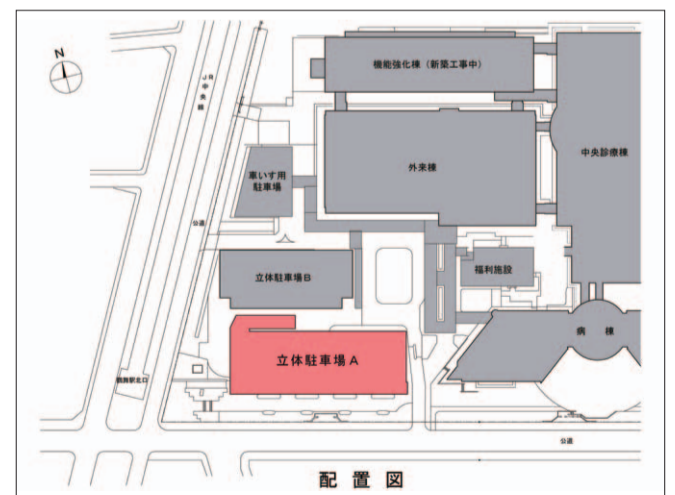
平成28年度鶴舞公開講座
「がん」最新スタンダード
予防・治療・暮らしの観点から

病院からの 駐車場の工事開始 お知らせ 患者駐車場の新設計画について

現在、患者用駐車場の入庫待ち車両により渋滞が引き起こされており、ピーク時には100m 道路(若宮大通)まで繋がり病院利用者及び病院周辺の住民の皆様大変ご迷惑をおかけしています。この対応策として、立体駐車場の整備を進めています。

まず、用途地域の規制により3階建て以上の駐車場の建設が規制されており抜本的な交通環境の改善ができない状況となっていたため、用途地域を第一種住居地域から近隣商業地域に変更しました。この変更により3階建て以上の立体駐車場の整備を行うことが可能となったため、敷地の南西角にある平屋建ての立体駐車場Aをとりこわし、5階建ての立体駐車場を整備する計画としています。250台程度の駐車スペースを増設することになり、入庫待ち車両が減少し交通環境が現状より改善されます。

立体駐車場建設工事期間中(来年1月から9月末の予定)は自動車や歩行者の動線を変更することとなり、大変ご迷惑をおかけしますがご協力をお願いします。



携帯電話及びスマートフォンの使用について

名大病院では、医用電気機器への電波影響を防止するとともに、迷惑通話を防止し、静かで落ち着いた院内環境を保持するため、携帯電話及びスマートフォンの使用について必要な事項を定めています。詳しくはホームページでお確かめください(<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/1385/1512/goraiinnominasama.html>)。なお、通話は、「通話可能エリア」及び公衆電話BOXに限って可能です。付近の方々に迷惑にならないように、ご配慮の上ご利用下さい。ご理解とご協力をお願いします。



禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

高度な医療を専門的に支援する医療技術部

正確な診断やより良い治療の提供を支える医療技術部。その役割とともにリハビリ部門の活動について、理学療法士の佐藤幸治先生に伺いました。



各専門家が質の高い医療を支援

医療技術部は、さまざまなアプローチから診断や治療、看護などを支援する診療支援部門の一つです。血液検査や病理検査などを担う臨床検査部門、MRIやCT検査、放射線治療などを行う放射線部門、人工心臓装置や人工透析の機器の操作などを行う臨床工学部門、理学療法や作業療法を行うリハビリ部門があり、国家資格を持つ専門家が質の高い医療サービスを提供しています。医療技術部では年一回、全体での勉強会を開催するほか、若手による研究活動にも力を入れ、日進月歩の医療技術に対応しています。

疾患ごとにチームで高度なケアを提供

リハビリ部門には、全身の運動を通じて身体の機能回復を図る理学療法士、作業を通じて手や脳などの機能回復を図る作業療法士、嚥下訓練や失

語症の言語訓練、人工内耳の訓練を行う言語聴覚士、視力検査などを行う視能訓練士が所属しています。その中で理学療法分野では脳血管、運動器、呼吸器、心大血管という疾患ごとの専門チームを編成し、それぞれ神経内科疾患や脳腫瘍、整形外科疾患、心臓手術後の患者さんなどを対象に高度なケアを提供しています。

最近、需要が多いのは呼吸器のリハビリです。術後に心身の機能が衰えていく廃用症候群や合併症の予防にリハビリが有効とわかってきたため、呼吸器チームは呼吸器疾患のほか、一般的な外科手術を行う患者さんにも対応。術前から呼吸練習などを行い、手術翌日にはベッドから起き上がる訓練を行っています。

高度医療、超急性期に対応するリハビリも

本院ならではの高度医療に関わる業務としては、覚醒下脳外科手術への参

加があります。脳腫瘍の摘出手術中、言語聴覚士や作業療法士が患者さんと会話をし、言語能力や手の機能を確かめながら手術を行うものです。また、がん患者さんへのリハビリには横断的なチームで対応しています。今後は、先端医療機能強化棟（仮称）のICU増床に備えてICUチームを結成し、患者さんのいち早い社会復帰、生活の質の向上に貢献する超急性期リハビリを進める予定です。

治療や検査は苦しく辛いことばかりです。だからこそ、少しでもリハビリの時間が楽しくなればとリハビリ部門では笑顔を大切に、快適なリハビリテーションルームで患者さんやご家族の皆さんをお迎えしています。気になることがありましたら、どんなことでもお気軽にご相談ください。病気の痛みや悲しみを私たちが分かち合い、一緒に乗り越えていきましょう。

新任挨拶

小児科長 教授 高橋 義行



10月1日付けで小児科学の教授を拝命いたしました。当科は、小児血液疾患、小児がん、新生児医療、神経疾患、発達障害、ウイルス感染、心臓疾患などを主に担当しています。特に、名大病院は全国で15施設しかない「小児がん拠点病院」に最高点で選ばれています。

愛知県の出生数は年間約6万5千

人、出生率は全国第3位です。子どもは将来を託す宝もの、小児医療の充実、社会復帰への手助けが重要です。他科の医師や多くの医療スタッフと密に連携しながら、最高レベルの小児医療を提供したいと考えています。

ご支援ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

ボランティアさん募集

本院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

- ボランティアホームページ <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/1411/volunteer.html>

「対応にひと工夫が必要な子どもたちの子育て」

親と子どもの心療科 准教授 岡田 俊

子育ては人生の一大事です。子どもが産まれた瞬間に、親としての歩みが始まります。人生をそれなりに歩んできたつもりでも、親としては新米です。核家族化の時代になって、子育てのなかでも孤立感を味わうことが増えました。育児書やインターネットの情報を見ながら、焦る日々。わが子の子育てだけがうまくいかないと、誰もが思いがちです。言うことを聞かない子どもをみて、思わず手をあげてしまいそうになった自分に気づき、ため息をつくこともあるでしょう。

子育ての苦悩の一つは、親御さんの心のゆとりが失われているから。子育ての過程では、自分のことを後回しにしてしまいがちですが、子どものためにも親御さん自身をいたわることが必要です。そのためには、家族や友人などの心の支え、保健所などでの相談、ときにはメンタルヘルス専門家での相談や受診が必要になります。

他方では、子どもさん自身に育てにくさがあることもあります。子どもはみんな個性的です。しかし、人一倍、個性的だったとしたら、親御さんの子育ての悩みも増えますし、家庭やお友達との間でもうまくいかないことが増えてしまいます。そ

のような子どもたちの中には、発達障がい診断があてはまる子どもさんもいます。

ことばのやりとりや、視線、表情、指さしなど、ことばによらないコミュニケーションが難しい、興味が偏っていたり、こだわりが強い、落ち着きがない、気持ちのコントロールが難しくかんしゃくを起こす、注意が持続しない、手先が不器用である、文字の読み書きや計算に困難さがあるなど、その子の抱える課題もさまざまです。このように対応にひと工夫が必要な子どもたちの子育てを支え、その子らしさをより活かせるように援助していく、親と子どもの心療科では、そういった援助を行っています。

お子さんの子育てがつらくなったとき、親御さんのこころをまずいたわってあげてください。そして、やはり子どもさんに育てにくさを感じたとしたら、一度、専門家の助言を求めることをお勧めします。

